

# ICTを活用して地方への人材回帰を実現！「北見市・サケ（鮭）モデルプロジェクト」

実施主体：北見市

## ①地域の概要

道内で市町村面積が1番広く、全国でも4番目を誇り、海と山の幸が豊富に集まる。四季折々の鮮やかな自然と都市空間を有する「北見」、美しい田園が広がる「端野」、カーリング女子LS北見の拠点として知られる「常呂」、北海道屈指の温泉郷・温根湯温泉がある「留辺蘂」と4つの地域からなっている。  
 (人口：116,850人 (R1.9.30現在))

## ②取組の目的

ICT環境を活用し、地元志向が強い北見工業大学の学生を東京の本社で育て、北見進出時のスタートアップ人材として地元に戻す人材回帰モデル「サケ（鮭）モデル」を推進するほか、Uターンが見込める地元出身の大学生を対象とした「ふるさとインターンシップ」などを展開することで、首都圏の人と仕事の誘引による地域経済の活性化を目指す。

## ③取組内容

### 【地域課題】

- ・各地から北見工業大学などに集まった若年層が、市外へ流出し人口が減少している
- ・首都圏に就職した地元人材が、北見市にUターンする際の雇用環境が整っていない。
- ・IT企業が北見市に進出する際に必要となる「スタートアップ人材」が不足している。

北見市は大消費地から遠く、生産物の輸送手段も脆弱で、物流のハンデがあるが、『IT』は物流を必要としない。

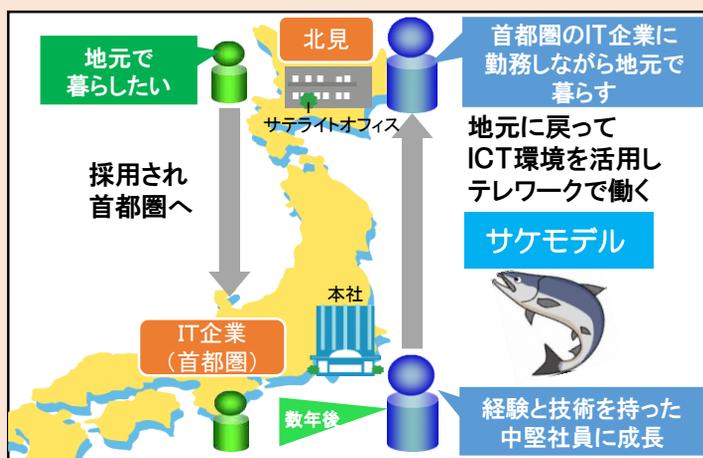
⇒ 首都圏IT企業の誘致に向けた取組の検討・着手

### 【サケ（鮭）モデルの確立】

北見工業大学の学生を首都圏のIT企業本社で採用し、数年後に北見に戻り、事業所開設のスタートアップ人材として活用する人材回帰モデルを確立

- 北見で働きたい学生と、北見に進出したい企業を「マッチング」
- ICTを活用したサテライトオフィスなどの働く場所を整備
- 市外に進学した地元出身者が、首都圏の仕事を北見市でテレワーク体験する「ふるさとインターンシップ」を実施
- 首都圏などに就職した地元出身者が、帰省時にテレワークで長期滞在する「帰省型テレワーク」を実施

※ サケ（鮭）モデルや北見市の取組を広く知ってもらうため、首都圏で北見テレワークセミナーや北見工業大学と連携したPRイベントを開催。また、親子でテレワークを考えてもらうため、大学や首都圏で社会人として働く子どもを持つ親を対象に、帰省する前のお盆前とお正月前に市民向けセミナーを開催。  
 (参考URL：<http://hatarabu-kitami.com/house/>)



## ④実績・効果

- ・平昌五輪に出場した男子カーリング選手が、東京のIT企業を辞めずにUターンし、地元でテレワーク。
- ・サケモデルでの北見進出を計画する首都圏のIT企業3社がサテライトオフィスを開設。

## ⑤苦労・課題

- ・企業等に対する「北見＝テレワーク」の認知度は向上したが、個人へのPRはまだ不十分。
- ・U・Iターンが見込める地元人材へのICT教育と、個人への更なるプロモーションが必要。

## ⑥活用した制度等

- ・ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業(総務省)(平成27年)
- ・地方創生加速化交付金(内閣府)(平成28年)
- ・地方創生推進交付金(内閣府)(平成28年～平成30年)

## 本取組のお問い合わせ先

北見市商工観光部工業振興課工業係 電話：0157-25-1210